

名古屋高速道路公社
運営会議
(第65回)

2026年6月29日

目次

I. 名古屋高速道路の現状

1. 会社の概要	4
2. 交通量等の現状	
(1) 交通量	5
(2) 渋滞	6
(3) 交通事故	7

II. 経営状況

1. 有料道路制度	9
2. 2025年度の経営状況	
(1) 2025年度収支状況	12
(2) 2025年度財務状況	14
(3) 2025年度末の償還状況	16

III. 今年度の取組

1. 中期経営計画の取組	18
2. 2026年度予算の概要	20
3. 建設事業	
(1) 都心アクセス事業	22
(2) 名岐道路（一宮～一宮木曾川）	27
4. 管理事業	
(1) 維持改良費（大規模修繕工事等）	29
(2) 業務管理費 （交通安全、逆走・誤進入対策等）	30
(3) 持続可能な社会づくり等	31

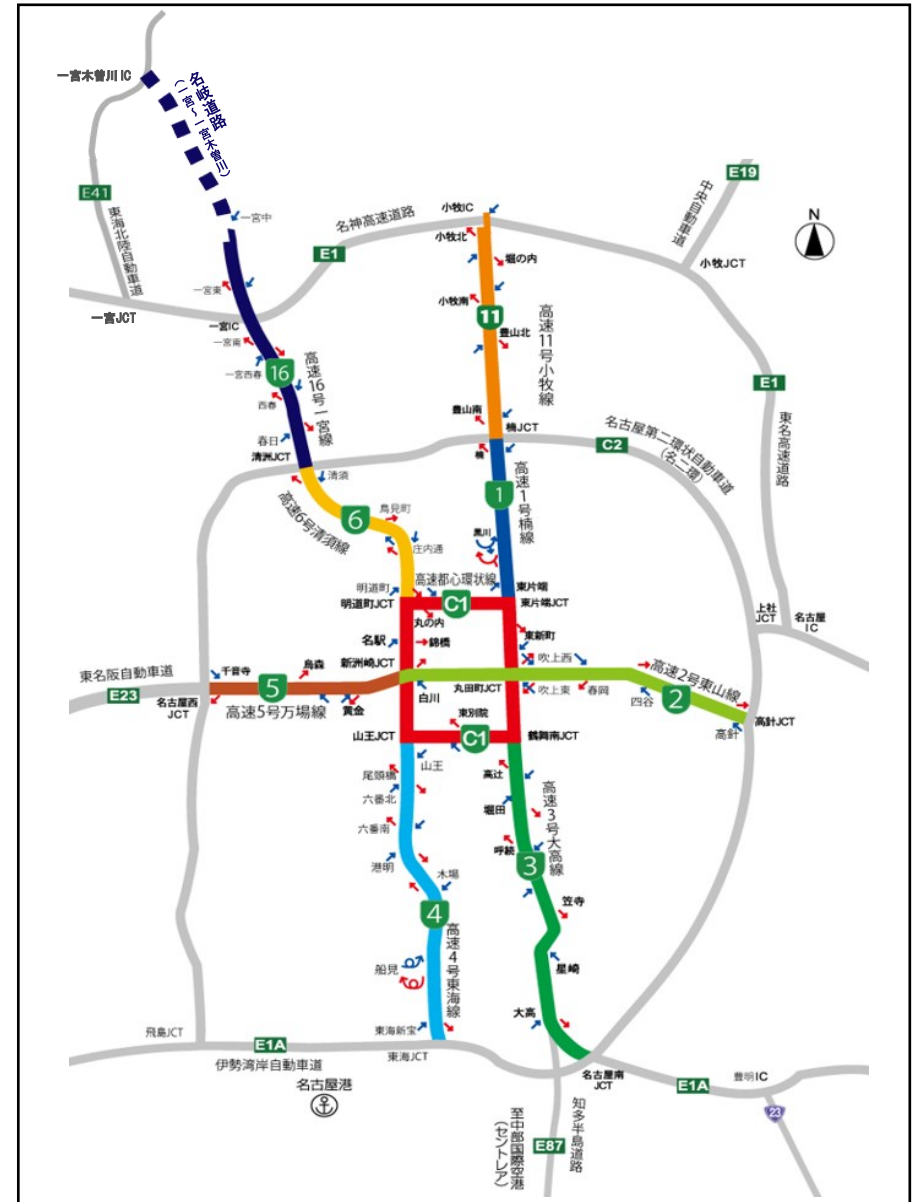
Ⅰ. 名古屋高速道路の現状

1. 公社の概要

名古屋高速道路ネットワークと公社の歩み

■名古屋高速道路網図

都心環状線から放射状に伸び、ネットワークを形成



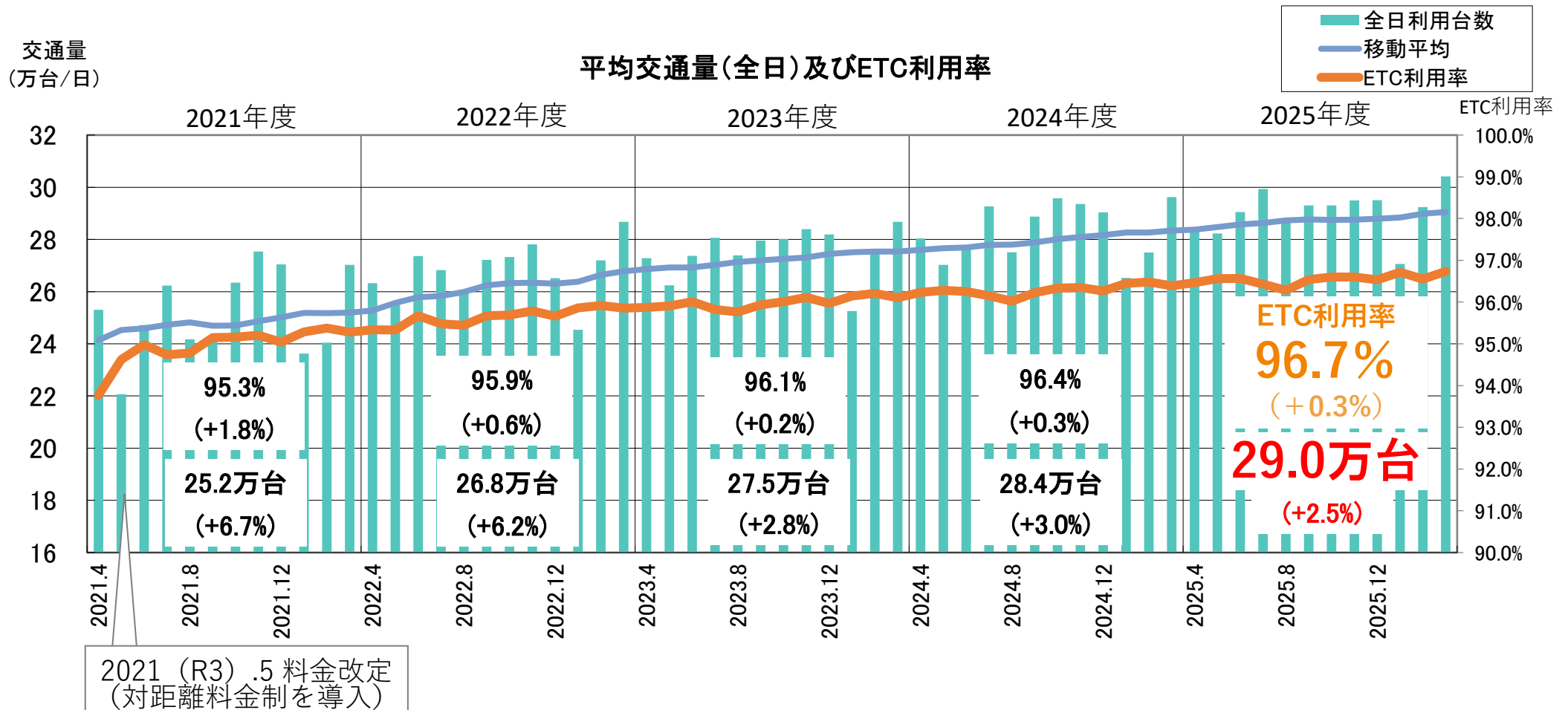
開通延長	日平均 通行台数 (2025年度)	料金収入 (2025年度)
81.2km	29万台	733億円

公社の歩み

- 1970年 9月 名古屋高速道路公社設立
- 1979年 7月 高速3号大高線第1期開通
- 2013年 11月 名古屋高速道路81.2kmの開通
- 2015年度 大規模修繕工事に着手
- 2020年度 都心アクセス事業に着手
- 2021年 5月 対距離料金制を導入
- 2025年 7月 長期ビジョン2035策定
中期経営計画 (2025-2027) 策定
- 2026年 1月 名岐道路 有料道路事業化

(1) 交通量

- 2025年度の1日当たりの**年平均交通量**は2024年度比**2.5%増加**し、**約29万台**となりました。
- **ETC利用率は96.7%**であり、**微増傾向が続いています**。



(注) 「移動平均」とは、当該月を含む過去1年間の交通量の平均値

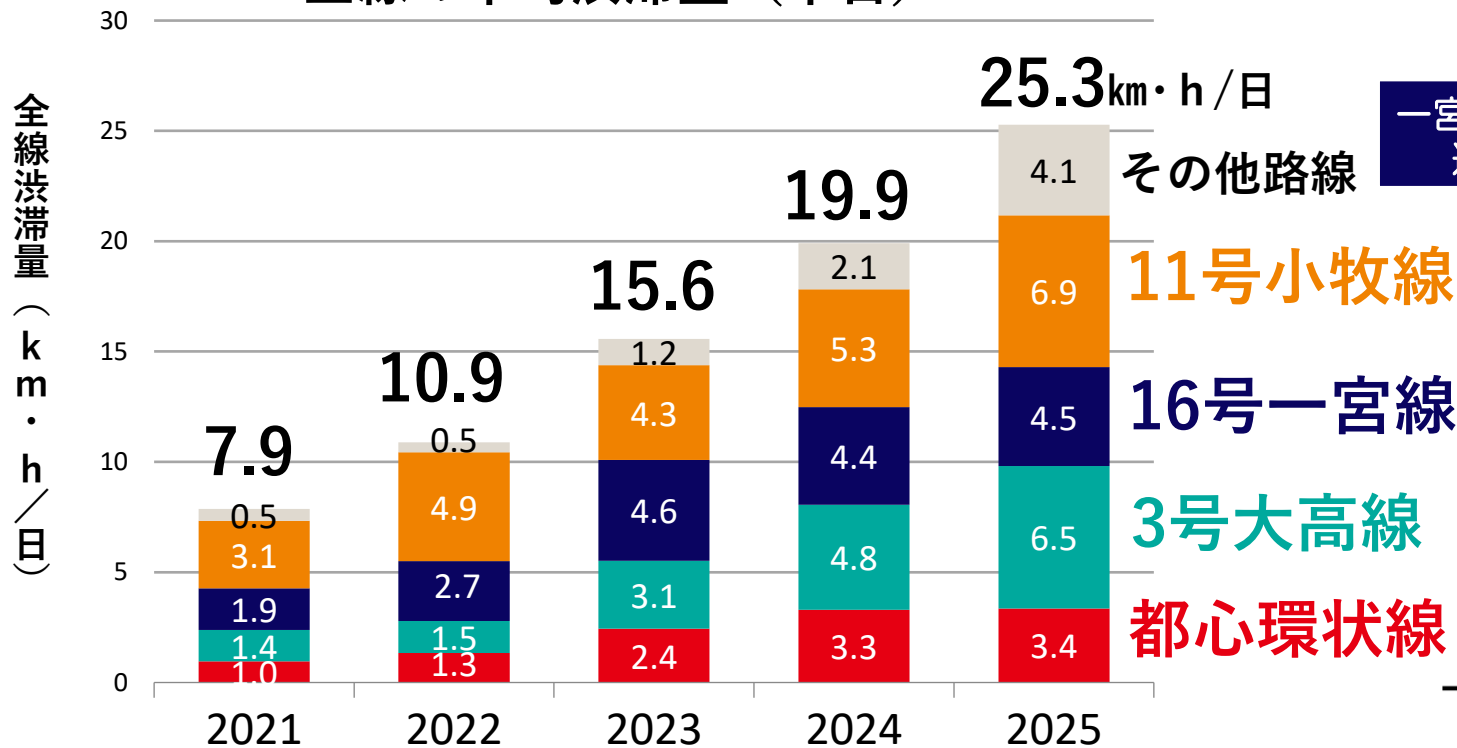
(注) 料金改定前との比較を可能とするため、料金改定前(～2021.4)の通行台数を推計値(料金圏撤廃と仮定)として計算している

2. 交通量等の現状

(2) 渋滞

- 全線の平均渋滞量（平日）は、2021年度以降、交通量とともに増加しています。
- 高速11号小牧線の小牧北出口と国道41号との合流部、高速3号大高線の高辻入口合流部や堀田入口合流部で渋滞が発生しています。
- 高速16号一宮線から名神高速道路への合流部の渋滞は、2025年11月の名神高速道路（下り線）の3車線運用開始以降は減少傾向にあります。

全線の平均渋滞量（平日）



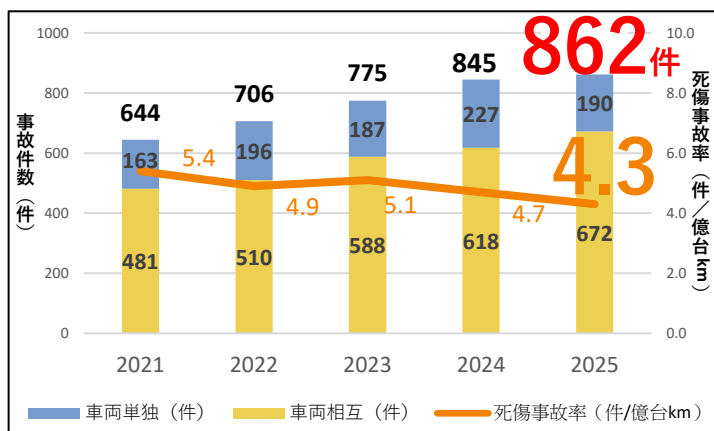
※渋滞量：渋滞長（時速30km以下の区間長）と発生時間の積（事故渋滞、工事渋滞を除く）

（注）端数処理の関係上、計においてあわないことがあります

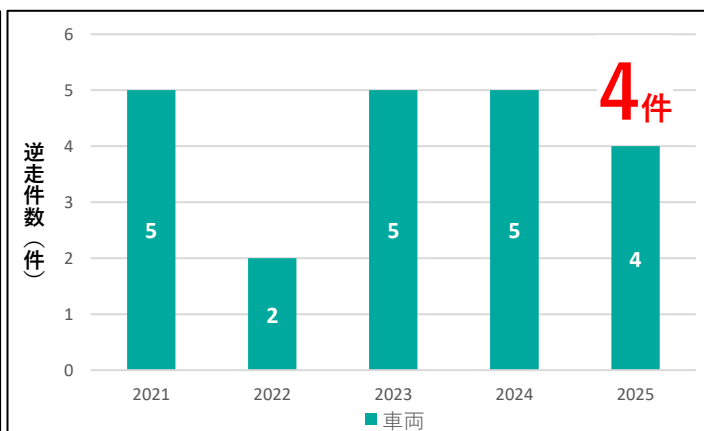
(3) 交通事故

- 交通事故発生件数は、2021年度以降、交通量とともに増加しています。
- 2025年度の交通事故発生件数は、**862件**でした。
- 2025年度の死傷事故率※¹は**4.3件/億台km**であり、死亡事故件数は**0件**でした。
(首都高速7.7件/億台km、阪神高速12.8件/億台km ※²)
- 2025年度の逆走の件数は**4件**、誤進入の件数は**14件**でした。

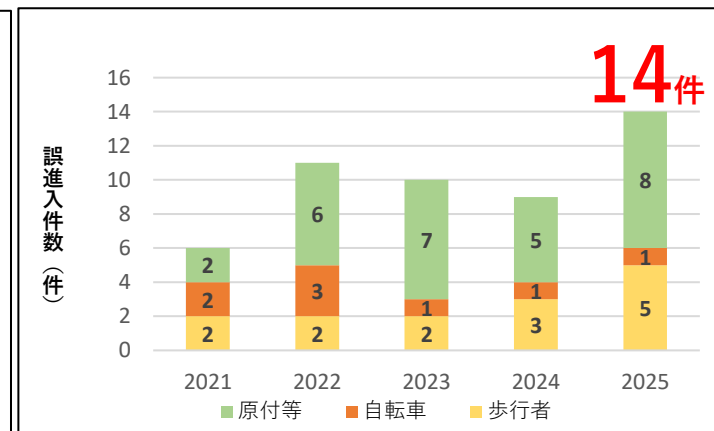
交通事故発生件数の推移



逆走件数の推移



誤進入件数の推移



※1: 「死傷事故率」とは、1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数を表す。

※2: 「高速道路機構ファクトブック2025」より2024年度実績

II. 経営状況

1. 有料道路制度

有料道路制度

- 有料道路制度とは、道路整備特別措置法に基づき、出資金や借入金で道路を建設し、完成した道路から通行料金を徴収してその返済に充てる方式です。
- 公社では、国から許可を受けた整備計画に基づく建設事業と、維持・修繕等の管理事業を行っています。

総収入

(通行料金収入の総額)

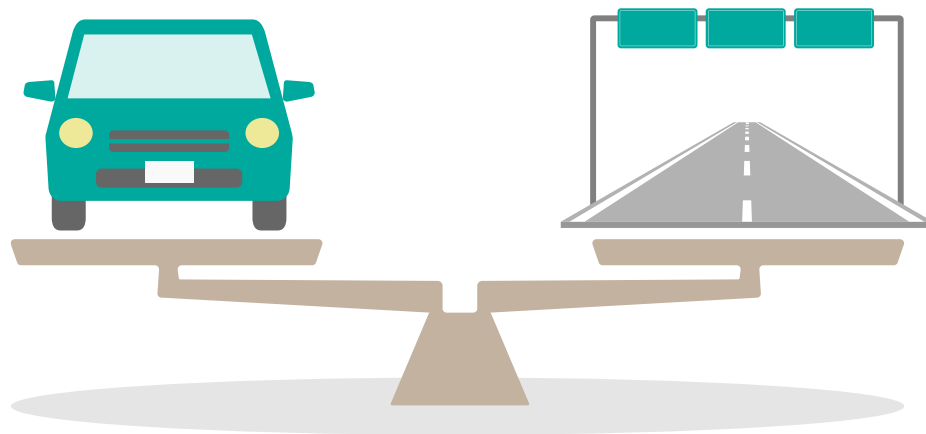
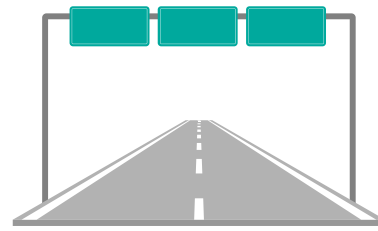
- 通行料金



総費用

(建設・管理の費用)

- 建設費
- 借入金利息
- 管理費



出資金・借入金等

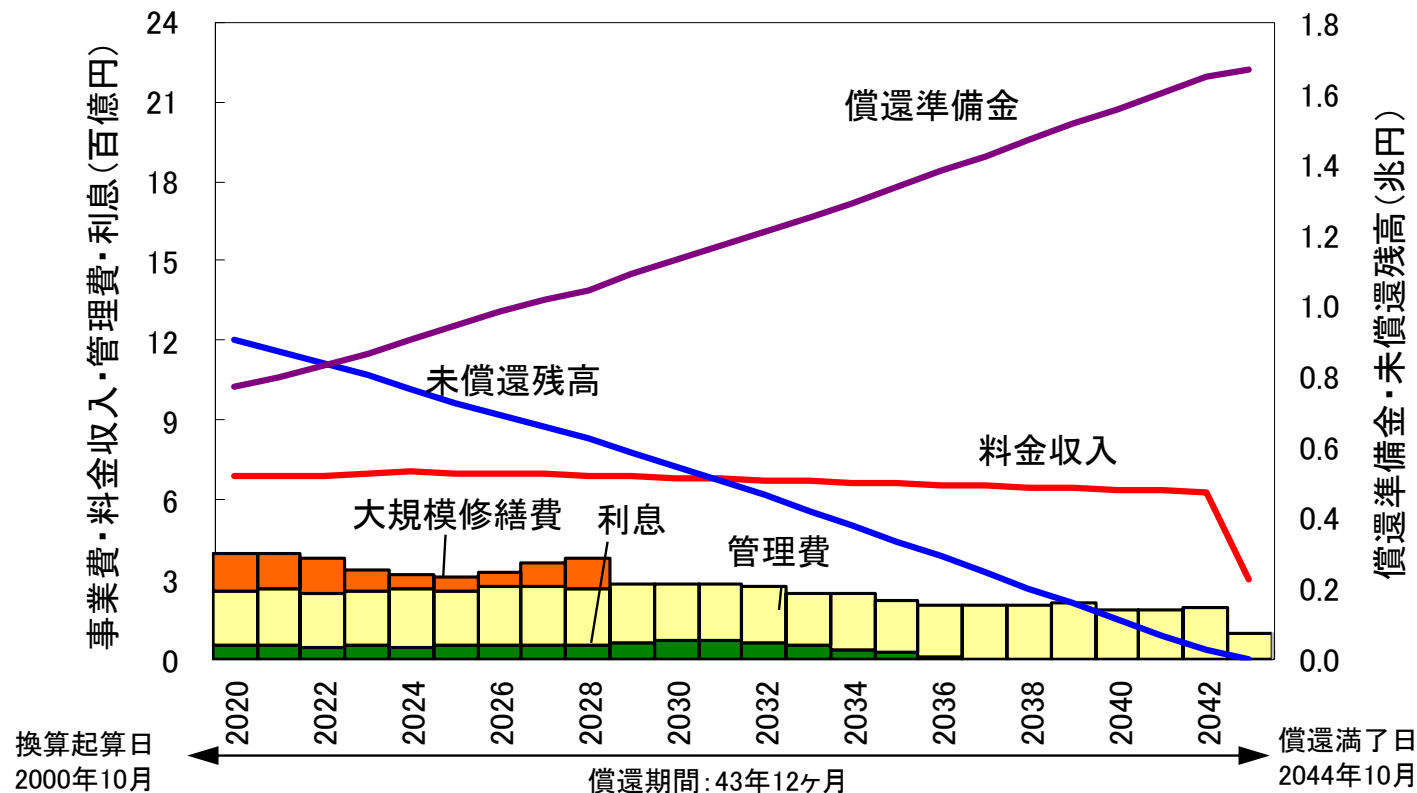
- 国（無利子貸付金）
- 愛知県（出資金・特別転貸債）
- 名古屋市（出資金・特別転貸債）
- 金融機関・投資家等（市場公募債等）

1. 有料道路制度

公社の料金認可

- 公社では、国から認可を受けた料金及び料金徴収期間に基づき、完成した道路から通行料金を徴収しています。
- 各年度の料金収入等と管理費等との差額（償還準備金繰入）を、これまでの建設に要した費用の償還に充て、その累計額を償還準備金として計上しています。

第25回料金認可（2020年3月国土交通大臣認可）

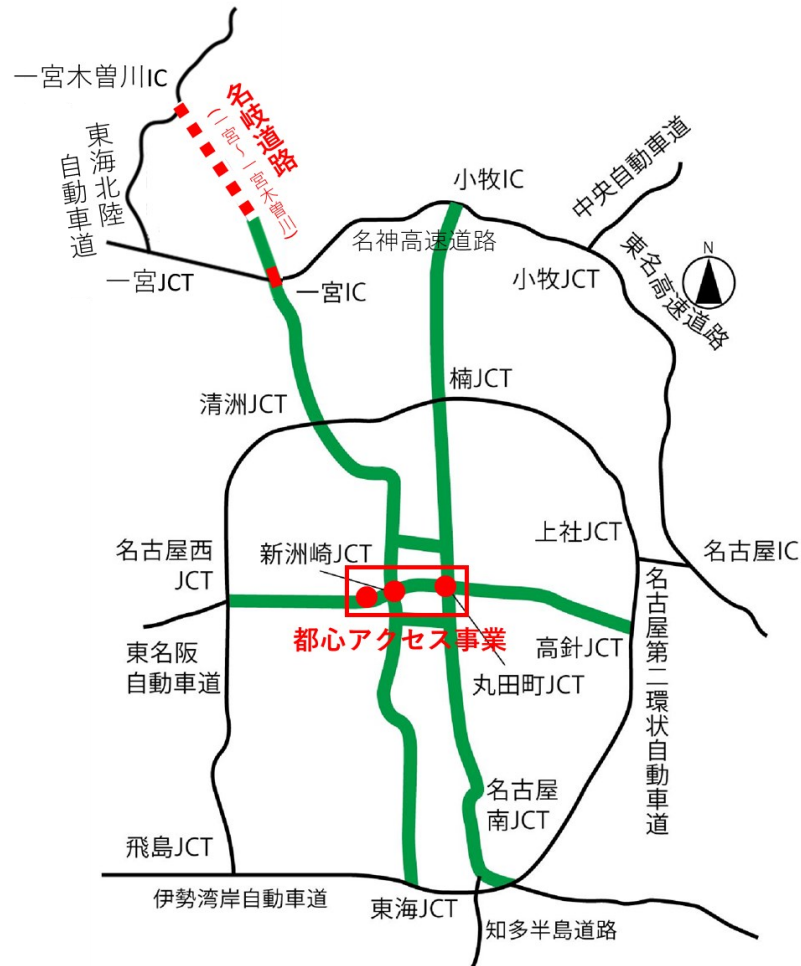


1. 有料道路制度

公社の整備計画

- 国から許可を受けた整備計画に基づき、
これまでに81.2kmのネットワークを整備してきており、
現在は「都心アクセス事業」「名岐道路（一宮～一宮木曾川）」の
整備を行っています。

第17回整備計画（2026年1月国土交通大臣許可）



総事業費

2兆2,130億円

建設事業の
完了年度

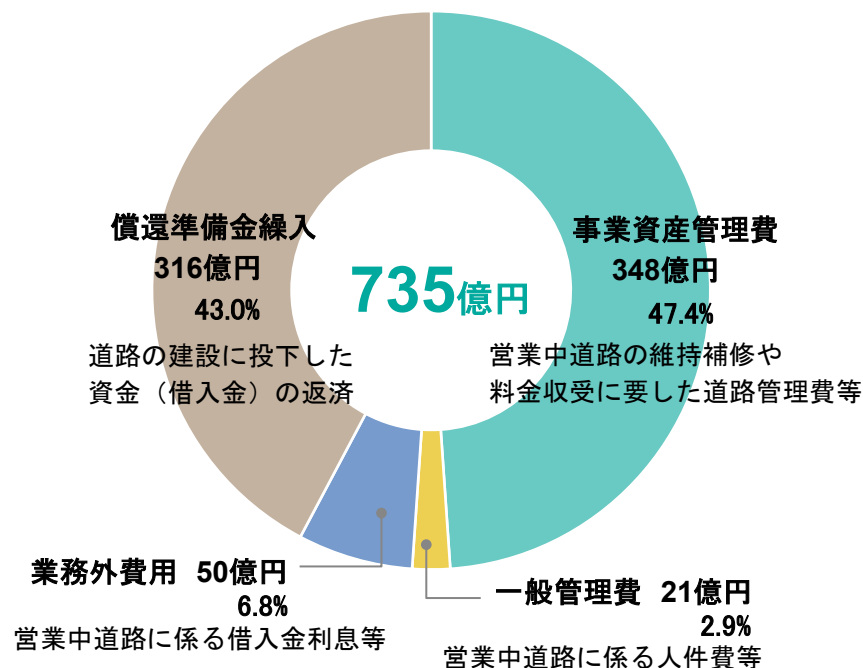
2039年度

都心アクセス事業 : 3,056億円
名岐道路（一宮～一宮木曾川） : 2,200億円

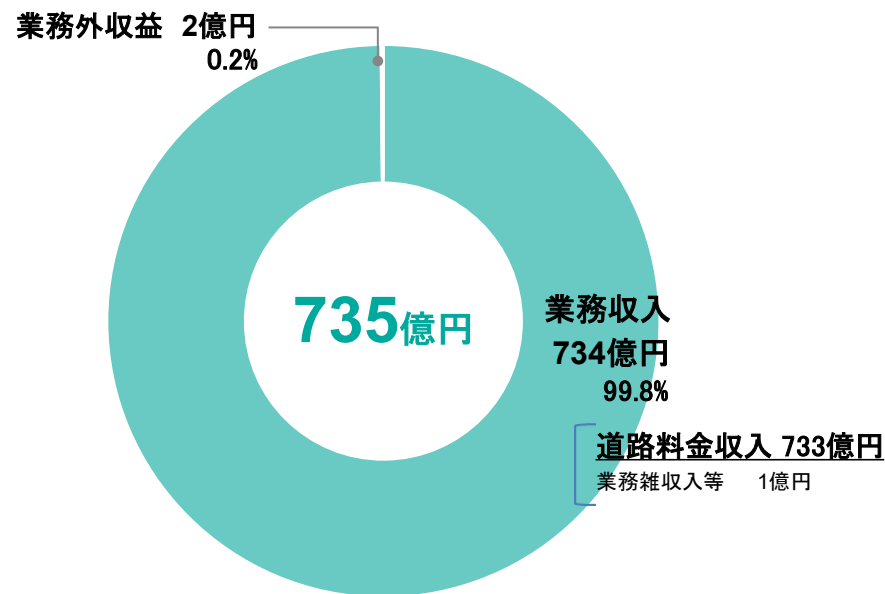
(1) 2025年度 収支状況（費用と収益の内訳）

- 収益の総額は、735億円で、うち733億円が道路料金収入となっています。
- 費用の総額は、735億円で、主なものは、道路の維持補修や料金収受など事業資産管理費は348億円、借入金利息など業務外費用は50億円、借入金の元金返済に充てた償還準備金繰入は316億円となっています。

費用内訳



収益内訳



(注) 端数処理の関係上、計においてあわないことがあります。

◆2025（令和7）年度決算については、現在、地方道路公社法に基づく手続き中であり、今後、決算関係書類を設立団体に提出予定

2. 2025年度の経営状況

損益計算書の概要

◆ 2025（令和7）年度決算については、
現在、地方道路公社法に基づく手続き中であり、
今後、決算関係書類を設立団体に提出予定

（単位：百万円）

費用の部					収益の部				
勘定科目	2025年度 (R7)	2024年度 (R6)	2024 (R6) 年度比		勘定科目	2025年度 (R7)	2024年度 (R6)	2024 (R6) 年度比	
	A	B	A-B	A/B(%)		A	B	A-B	A/B(%)
事業資産管理費	34,816	31,265	3,551	111.4	業務収入	73,352	71,710	1,642	102.3
道路管理費	34,812	31,263	3,550	111.4	道路料金収入	73,255	71,638	1,618	102.3
(内消費税納付金)	(3,453)	(4,105)	(△652)		マイレージ還元 負担金収入	0	0	△0	57.3
貸倒引当金繰入	4	2	2	174.8	マイレージ引当金 戻入益	1	2	△1	48.7
マイレージ還元 負担金	0	0	△0	40.3	業務雑収入	95	70	25	136.3
一般管理費	2,107	1,843	264	114.3	業務外収益	176	103	73	170.4
業務外費用	5,009	4,733	276	105.8					
(内借入金利息)	(4,851)	(4,572)	(279)						
小計（管理費用）	41,932	37,841	4,091	110.8					
償還準備金繰入	31,596	33,972	△2,376	93.0					
合計	73,528	71,813	1,715	102.4	合計	73,528	71,813	1,715	102.4

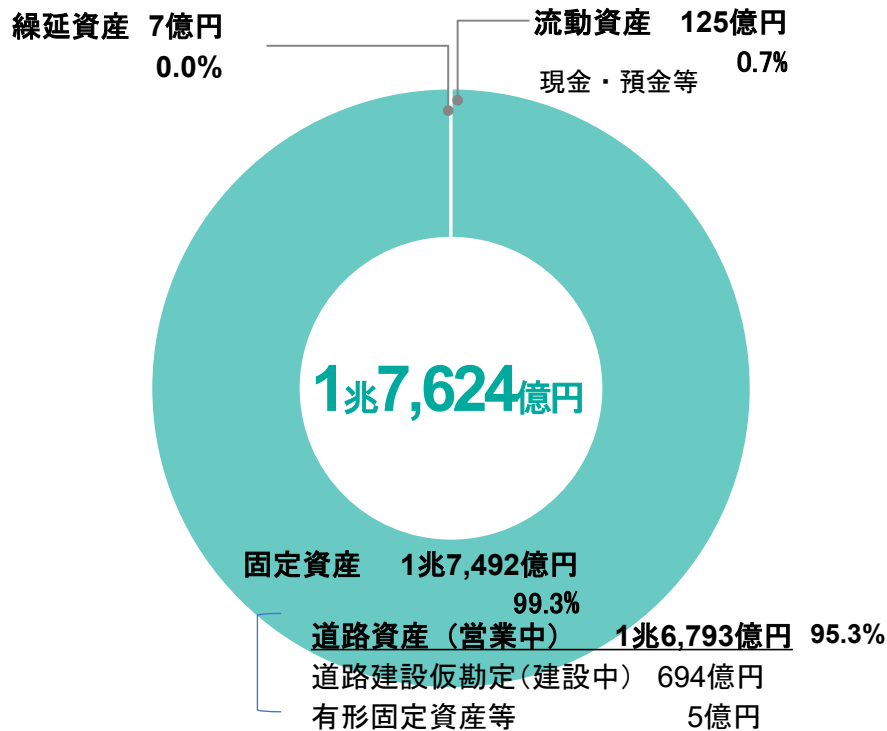
（注）端数処理の関係上、計及び2024（R6）年度比においてあわないことがあります。

2. 2025年度の経営状況

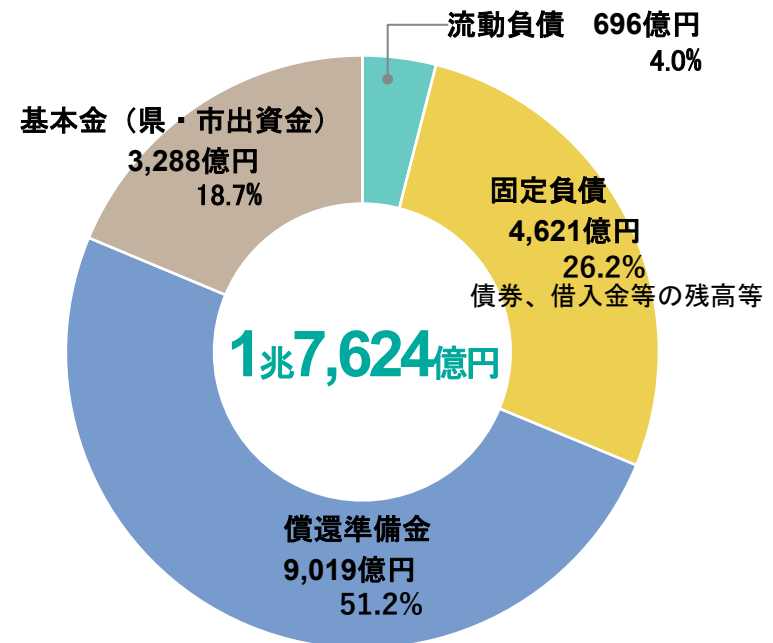
(2) 2025年度 財務状況（資産と負債・資本の内訳）

- 資産の総額は、1兆7,624億円であり、うち営業中の道路資産は1兆6,793億円で、資産全体の約95%を占めています。
- 負債及び資本の総額は、1兆7,624億円であり、主なものは、道路債券を含む固定負債が4,621億円、償還準備金が9,019億円、愛知県・名古屋市からの出資金は3,288億円となっています。

資産内訳



負債・資本内訳



◆ 2025 (令和7)年度決算については、現在、地方道路公社法に基づく手続き中であり、今後、決算関係書類を設立団体に提出予定

(注) 端数処理の関係上、計においてあわないことがあります。

2. 2025年度の経営状況

貸借対照表の概要

◆ 2025（令和7）年度決算については、
現在、地方道路公社法に基づく手続き中であり、
今後、決算関係書類を設立団体に提出予定

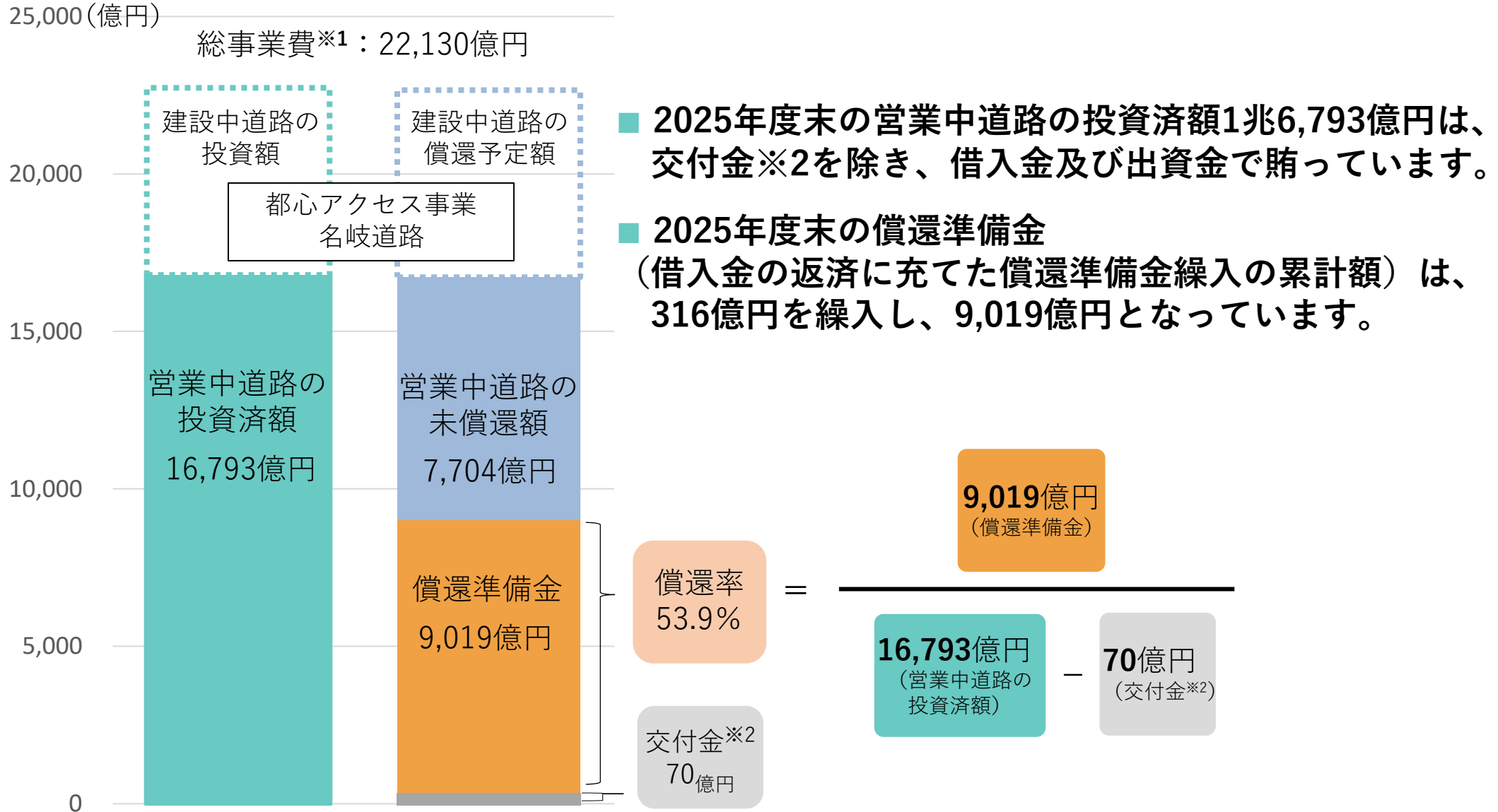
（単位：百万円）

資産の部					負債及び資本の部				
勘定科目	2025年度 (R7) A	2024度 (R6) B	2024 (R6) 年度比		勘定科目	2025年度 (R7) A	2024度 (R6) B	2024 (R6) 年度比	
			A-B	A/B(%)				A-B	A/B(%)
流動資産	12,508	12,057	451	103.7	流動負債	69,639	69,620	19	100.0
現金・預金など	4,374	4,652	△278	94.0	1年以内返済予定 長期借入金	59,384	58,796	588	101.0
未収金	8,138	7,408	730	109.9	未払金など	10,255	10,824	△569	94.7
貸倒引当金	△4	△2	△2	189.5	固定負債	462,081	473,559	△11,478	97.6
固定資産	1,749,244	1,725,974	23,270	101.3	名古屋高速道路債券	369,600	378,300	△8,700	97.7
道路	1,679,294	1,678,888	406	100.0	政府借入金	32,286	32,436	△149	99.5
道路建設仮勘定	69,432	46,519	22,913	149.3	県・市借入金	39,698	36,861	2,837	107.7
有形固定資産など	518	568	△49	91.3	市中銀行等借入金 など	12,283	17,756	△5,472	69.2
繰延資産	669	727	△58	92.0	退職給与引当金	1,189	1,182	7	100.6
					ETCマイレージ 引当金	2	3	△1	63.5
					資産見返交付金	7,022	7,022	0	100.0
					特別法上の引当金等	901,917	870,321	31,596	103.6
					償還準備金	901,917	870,321	31,596	103.6
					基本金(県・市出資金)	328,784	325,259	3,525	101.1
資産合計	1,762,421	1,738,758	23,662	101.4	負債・資本 合計	1,762,421	1,738,758	23,662	101.4

（注）端数処理の関係上、計及び2024（R6）年度比においてあわないことがあります。

2. 2025年度の経営状況

(3) 2025年度末の償還状況



※1 第17回整備計画(2026年1月国土交通大臣許可)に基づく

※2 交付金は「資産見返交付金」であり、関連街路分担金に対する一定の補助として1998年度(昭和63年度)まで県・市から受けた補助金であり、償還対象外。

◆ 2025(令和7)年度決算については、現在、地方道路公社法に基づく手続き中であり、今後、決算関係書類を設立団体に提出予定

Ⅲ. 今年度の取組

1. 中期経営計画の取組

長期ビジョン2035と中期経営計画（2025-2027）

- 2035年度を目標年度とし、目指すべき将来像を定めた「長期ビジョン2035」を策定しました。本ビジョンはこれまで策定してきた中期経営計画の上位計画と位置づけています。
- 中期経営計画（2025-2027）では、長期ビジョンで掲げた将来像の具現化に向けた具体的施策とロードマップを示し、事業に取り組んでいます。

目指すべき将来像

人々の暮らしや社会をもっと豊かに、
もっとしあわせにする道路



1. 中期経営計画の取組

中期経営計画（2025-2027）の2025年度実績

- 中期経営計画(2025-2027)の1年目である2025年度においては、長期ビジョン2035・中期経営計画(2025-2027)で定めた10の取組方針に基づき、ビジョンの達成に向けて着実に施策を進めました。

	3つの観点	目指すべき将来像の実現に向けた5つの方向性	10の取組方針		2025年度実績
人々の暮らしや社会をもっと豊かに、もっとしあわせにする道路	観点1 人々の暮らしを支える	方向性 I いつでも、だれでも安全・安心な道路	1	インフラ長寿命化と災害への対応	大規模修繕計画に基づき構造物修繕と、16号一宮線北行きのリフレッシュ工事を実施
		方向性 II だれにとってもストレスフリーで、ゆとりや楽しさを提供する道路	2	安全・安心な道路空間の実現	都心環状線本線合流部で大型矢印等逆走対策を追加実施
			1	快適な走行空間の実現	渋滞緩和に向け、四谷出口の信号現示調整により、1サイクル当たりの捌け台数が増加
		2	ゆとりや楽しさの実現	観光向け料金プランの期間・エリアを拡大し内容を充実	
	観点2 地域社会・産業を支える	方向性 III 名古屋都市圏における人・モノの交流を促進し、産業活動を支援する道路	1	道路ネットワークの充実	都心アクセス（栄地区）で工事契約し、名岐道路（一宮～一宮木曾川）は有料道路事業化
			2	次世代に向けた技術開発に貢献	事業者ヒアリングを踏まえ、塗装ケレン・舗装補修材料・情報提供装置の試験施工を実施
		方向性 IV 人に優しく、環境と共生し、地域に未永く愛される道路	1	持続可能な社会づくりへの貢献	道路照明をLED化しCO ₂ 排出量を31.6%削減、太陽電池の試験導入検討を開始
			2	地域社会への貢献	地域連携強化としてイベントを6回開催し、あわせてネックス・プラザ改修調査を実施
	観点3 支える基盤としての公社	方向性 V 健全な経営のもとに、多様な人材が活躍し、ポテンシャルを最大限発揮できる公社	1	経営基盤の強化	償還計画を踏まえ予算編成と分析を行い、ソーシャルファイナンス債を多様な年限で発行
			2	人材確保・人材育成	人材育成計画策定に向け調査を実施し、社内で男性育休促進を周知、取得率は83%

2026年度予算の概要

予算総額 1,271億円

■ 予算総額1,271億円

(1) 建設事業 114億円 [2025 (R7) 年度比0.8]

① 都心アクセス事業 (新洲崎地区、黄金地区、栄地区) 91億円 [2025 (R7) 年度比0.69]

・ 本体工事、地下埋設物移設工事等

② 名岐道路 (一宮～一宮木曾川) 8億円 [皆増]

・ 測量、地質調査、設計等

③ 一般管理費、支払利息 15億円 [2025 (R7) 年度比1.48]

(2) 管理事業 1,157億円 [2025 (R7) 年度比1.03]

① 維持改良費 353億円 [2025 (R7) 年度比1.04]

・ 大規模修繕工事、計画的な維持補修

・ 道路構造物、附属設備の補修工事 (舗装の打換え、遮音壁の取替、施設更新工事等) ・ 点検、雪氷対策 等

② 業務管理費 128億円 [2025 (R7) 年度比1.05]

・ 料金收受業務

・ 交通管理・管制業務 (交通パトロールや故障車・交通事故対応等)

・ 交通安全・渋滞対策等にかかる業務 等

③ 業務外支出 (元金償還金、支払利息) 655億円 [2025 (R7) 年度比1.01]

④ その他 (一般管理費、予備費) 21億円 [2025 (R7) 年度比0.98]

(3) その他事業 0.6億円 [2025 (R7) 年度比0.93]

都心アクセス事業に係る代替地取得費用、合併料金所の維持管理に係る受託工事

2. 2026年度予算の概要

2026年度予算の概要

- 予算総額は 1,271億円で、建設事業費の建設費は99億円、維持改良費は353億円、業務管理費は128億円です。
- 料金収入は年間692億円を計上しています。

(単位:百万円)

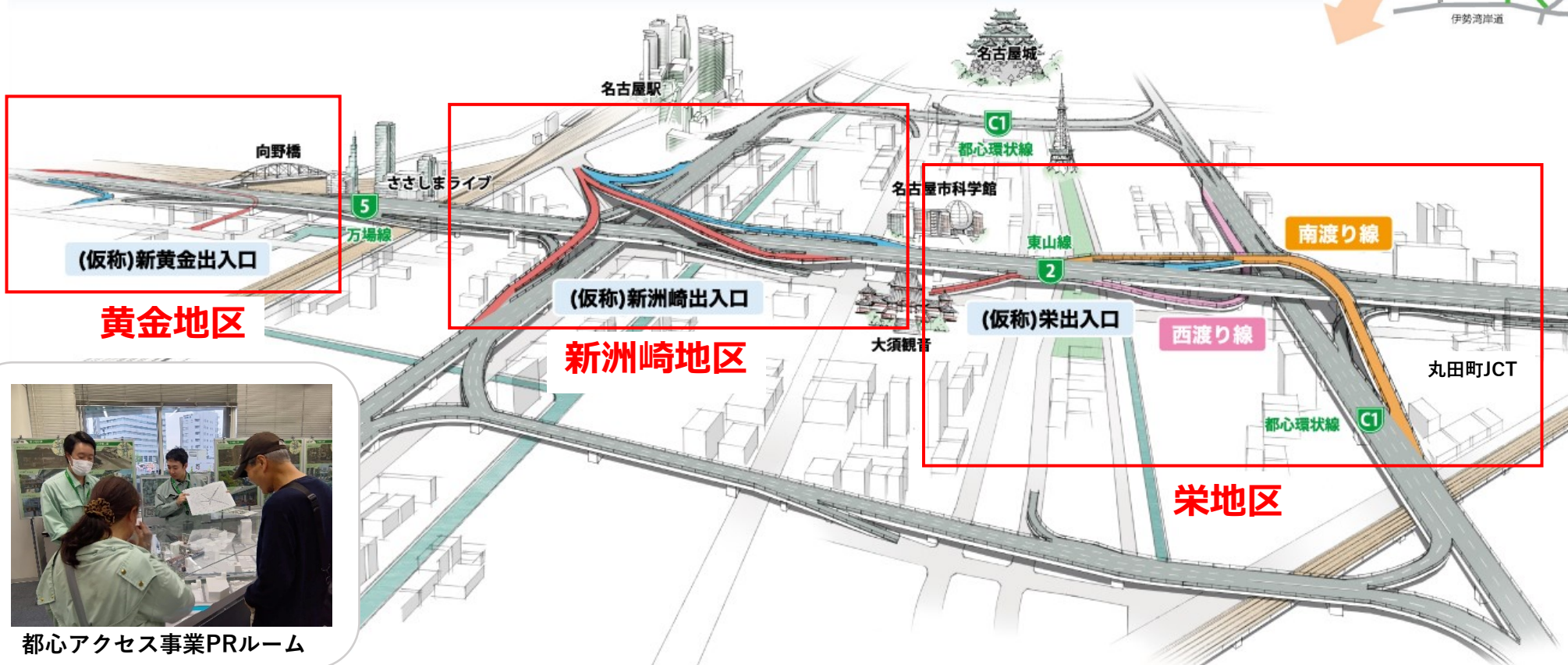
区 分	収 入				支 出			
	科 目	2026(R8) 予算額(A)	2025(R7) 予算額(B)	(A)／(B)	科 目	2026(R8) 予算額(A)	2025(R7) 予算額(B)	(A)／(B)
建設事業費	県・市出資金	1,530	2,145	71.3%	建設費	9,890	13,278	74.5%
	無利子貸付金	2,550	3,575	71.3%	一般管理費	1,321	930	142.0%
	特別転貸債	3,570	5,005	71.3%	支払利息	189	92	205.4%
	民間借入金	3,750	3,575	104.9%				
	計	11,400	14,300	79.7%	計	11,400	14,300	79.7%
管理事業費	料金収入	69,206	68,092	101.6%	維持改良費	35,250	33,804	104.3%
	民間借入金(借換)	46,164	44,393	104.0%	業務管理費	12,773	12,152	105.1%
	雑収入	287	257	111.7%	一般管理費	2,095	2,144	97.7%
					業務外支出	65,534	64,637	101.4%
					元金償還金	59,384	58,796	101.0%
					支払利息	6,150	5,841	105.3%
					予備費	5	5	100.0%
計	115,657	112,742	102.6%	計	115,657	112,742	102.6%	
その他事業費	受託工事収入	10	9	111.1%	受託工事費	10	9	111.1%
	代替地取得借入金	53	59	89.8%	代替地取得費	53	59	89.8%
	計	63	68	92.6%	計	63	68	92.6%
合 計	127,120	127,110	100.0%	合 計	127,120	127,110	100.0%	

3. 建設事業

(1) 都心アクセス事業の概要

- 都心アクセス事業の**新洲崎、黄金、栄**の3地区において、リニア中央新幹線開業の波及効果を最大限に活かすため、引き続き事業の進捗を図ります。
- 本事業を沿線住民の皆さまへわかりやすく紹介するとともに、教育機関や専門機関を対象とした見学・説明を通じた将来の担い手確保目的に、見学・説明の場となる「都心アクセス事業PRルーム」を2026年4月に開設しました。

2026年度工事費等
約91億円



都心アクセス事業PRルーム

3. 建設事業

(1) 都心アクセス事業 ①新洲崎地区

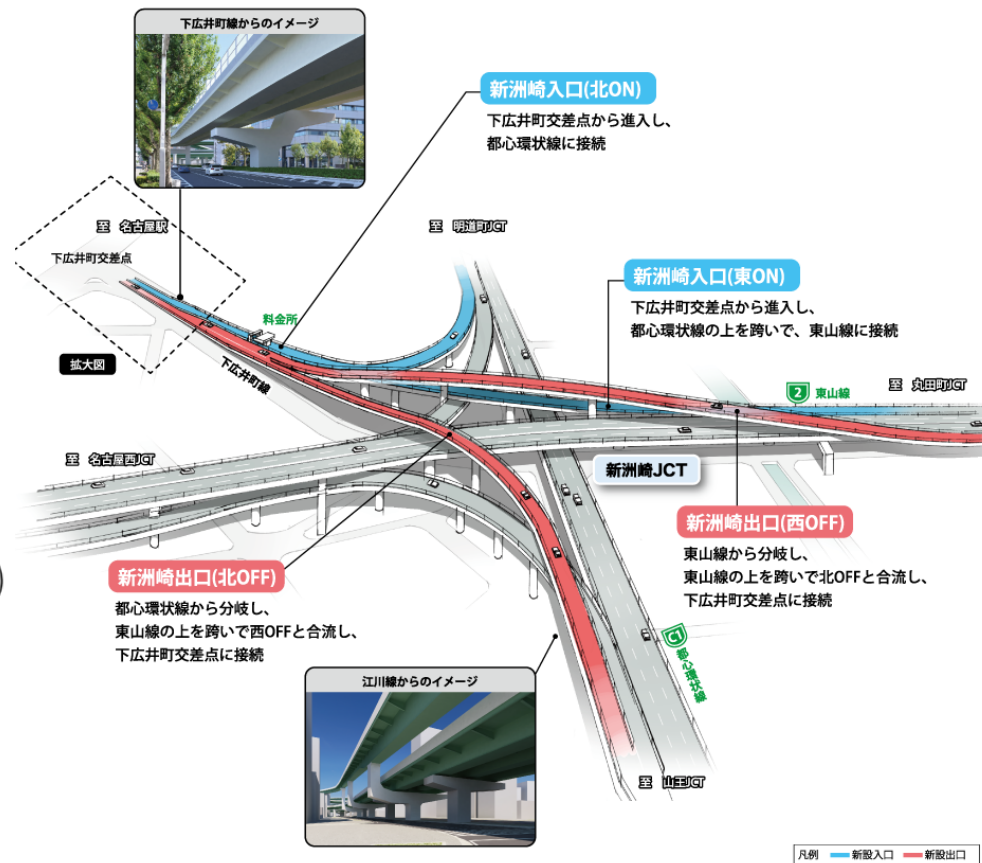
○周辺交通に配慮し、橋脚基礎等の下部工工事、鋼製橋脚・橋桁等の鋼製部材製作を推進します。

■2025年度実績

2024年度から工事に着手しており、2025年度は橋脚基礎等の下部工工事を進めるとともに、鋼製橋脚や橋桁等の上部工に用いる鋼製部材の製作にも着手しました。

■2026年度計画

引き続き、周辺交通に配慮しながら、橋脚基礎等の下部工の工事を進めるとともに、鋼製橋脚や橋桁等の上部工に用いる鋼製部材の製作を本格化していきます。

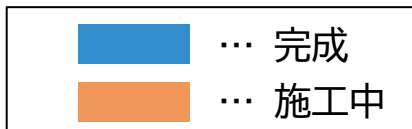


【工事進捗】①新洲崎地区 下部工工事 (2026年6月22日時点)

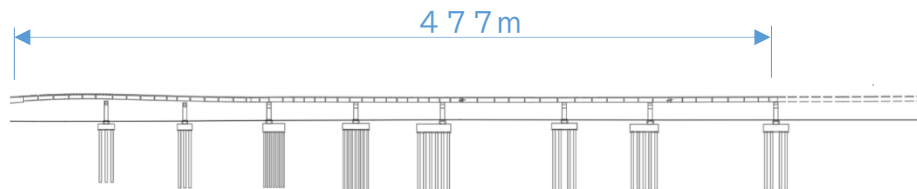
中期経営計画 方向性Ⅲ
取組方針1
道路ネットワークの充実

○全45基の内、29基で現地の工事に着手しています。

凡例 ※現場状況の反映

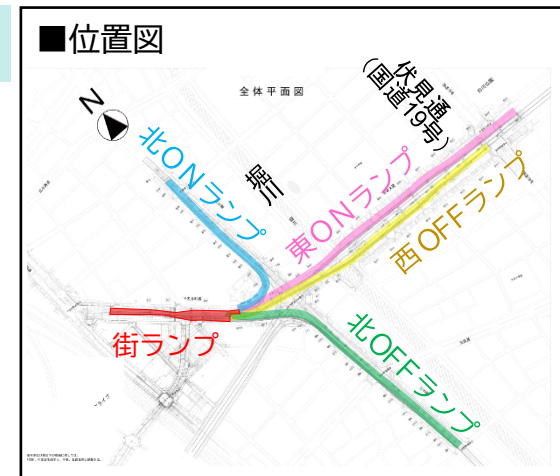
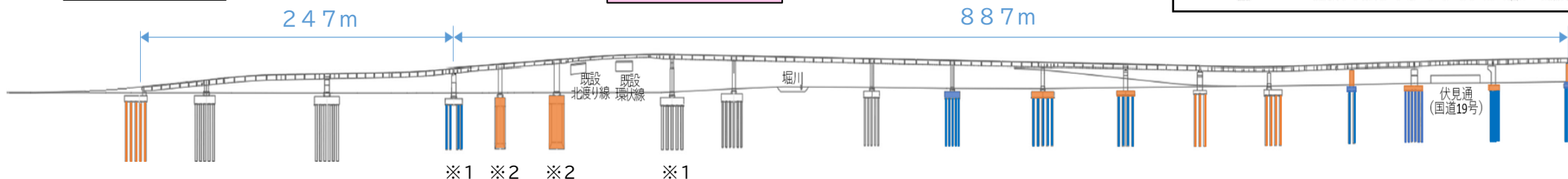


北ONランプ

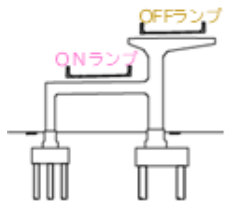


街ランプ

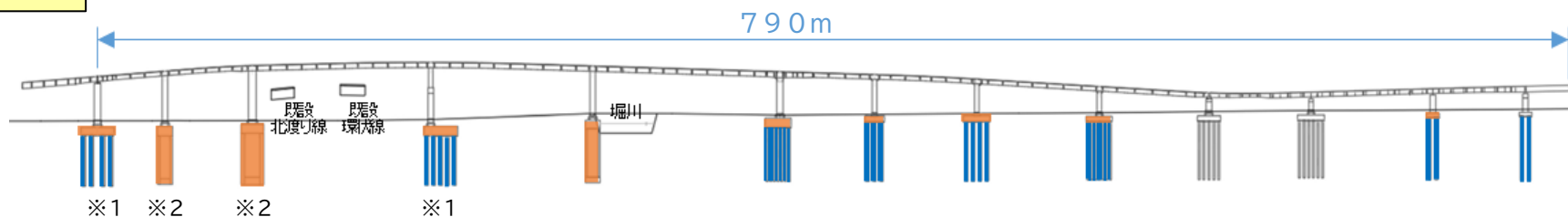
東ONランプ



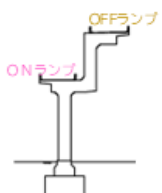
※1
ON・OFFランプ 両方の上部工
を支えるT形構造の橋脚



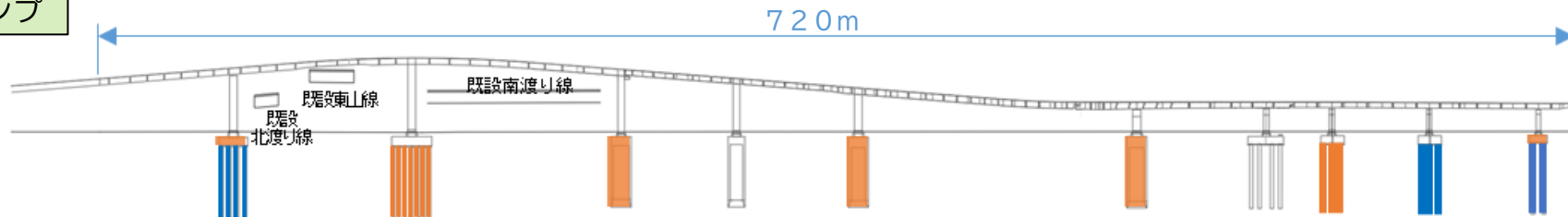
西OFFランプ



※2
ON・OFFランプ 両方の上部工
を支える単柱構造の橋脚



北OFFランプ



3. 建設事業

(1) 都心アクセス事業 ②黄金地区

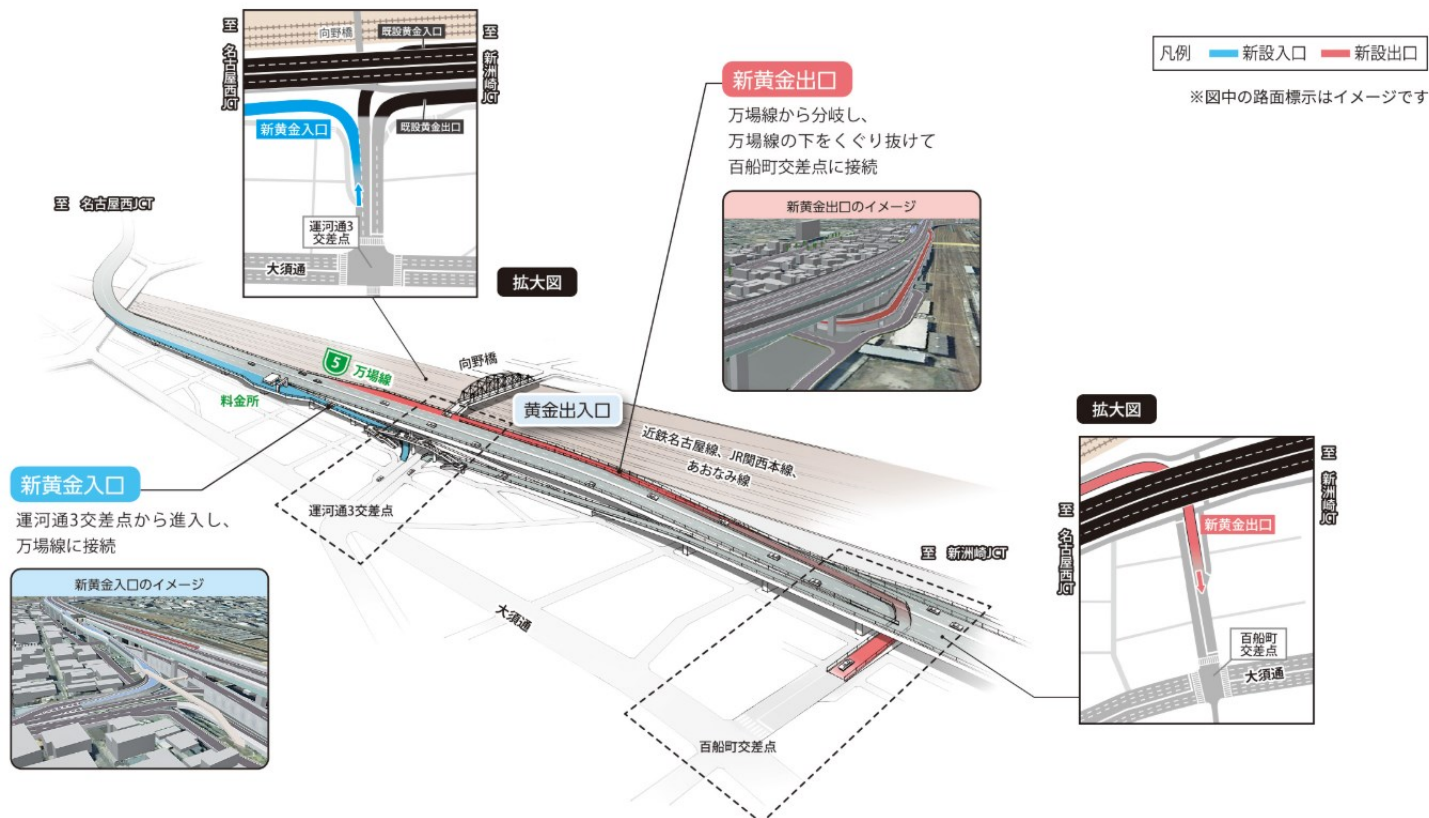
- 工事説明会を開催し、（仮称）新黄金入口の工事に着手します。
- 用地取得や地下埋設物等（占用物件）の移設工事を推進します。

■ 2025年度実績

新黄金入口の設計を完了させ、工事の発注を行いました。また、用地取得（取得率77%）や電力等の占用物件の移設工事を進めました。

■ 2026年度計画

新黄金入口の工事説明会を開催したうえで工事に着手します。
また、引き続き、用地取得や地下埋設物等の占用物件の移設工事を進めます。



工事に着手する前の現在の様子



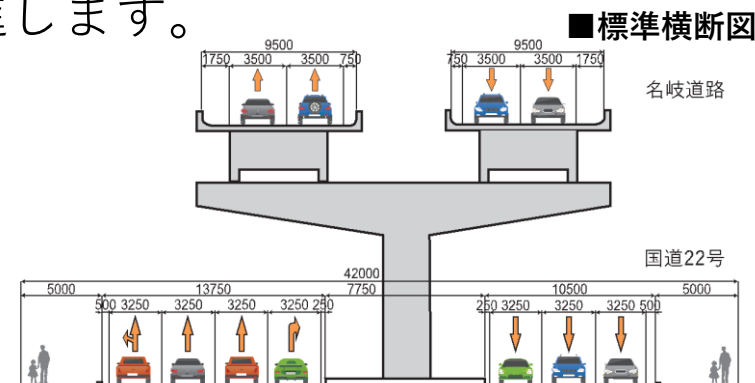
用地取得が進み木柵で囲んだところ

(2) 名岐道路 (一宮～一宮木曾川)

中期経営計画 方向性Ⅲ
取組方針 1
道路ネットワークの充実

**2026年度 設計費等
8億円**

- 2025年4月に、名岐道路 (一宮～一宮木曾川) **延長6.9km**が国土交通省の公共事業として新規事業化されました。
- 2026年1月に有料道路事業化されました。
- 国土交通省の公共事業と当公社の**有料道路事業の合併施行**により事業を推進します。



※中部地方整備局愛知国道事務所公表資料(2025.4.1)、名岐道路(一宮～一宮木曾川)都市計画のあらまし(愛知県2024.10)から抜粋

(2) 名岐道路（一宮～一宮木曾川）

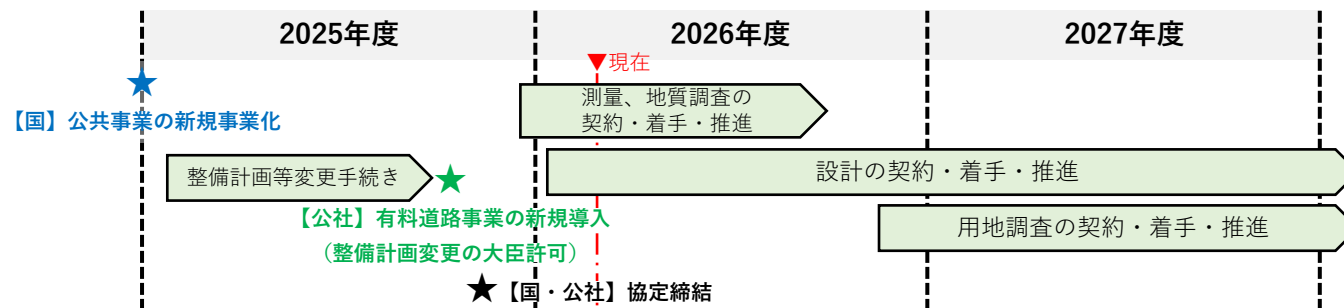
○沿線住民等に事業への理解を深めていただくための説明を行うとともに、測量・地質調査・設計等を推進します。

■ 2025年度実績

有料道路事業を新規導入するため整備計画変更の大臣許可等を受け、国との合併施行事業として、費用負担区分・施工区分に係る協定を締結しました。

■ 2026年度計画

国などと連携して、沿線住民等に事業への理解を深めていただくための説明を行うとともに、測量・地質調査・設計等に着手・推進します。2026年4月から「名岐道路事業部」と組織名称を改めて体制を強化するとともに、一宮市内に事業推進のための事務所の整備を進めます。



現在の国道22号の渋滞状況



国・愛知県・一宮市などの関係機関との連携

4. 管理事業

(1) 維持改良費（大規模修繕工事等）



中期経営計画 方向性1
取組方針1
インフラ長寿命化と災害への対応

○大規模修繕工事・リフレッシュ工事等を実施し、安全・安心な道路の確保に取り組みます。

**2026年度 維持改良費
353億円**

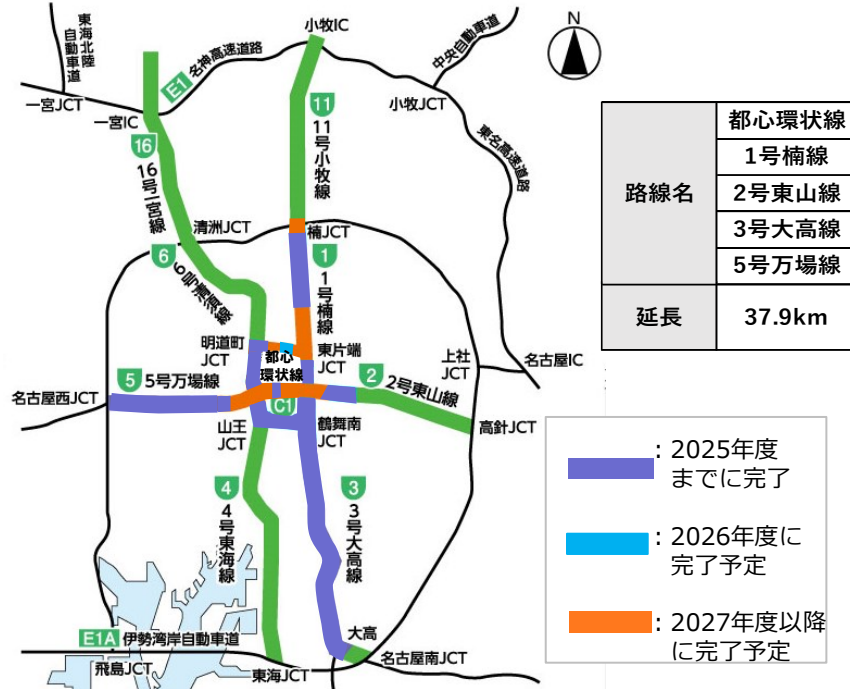
■ 2025年度実績

大規模修繕計画に基づき、都心環状線、1号楠線、2号東山線の工事を実施しました。あわせて、新たな課題をふまえた大規模修繕計画の見直しに向けて、学識者を含めた技術検討会を設置し、検討を進めました。また、16号一宮線北行きのリフレッシュ工事を実施しました。

■ 2026年度計画

引き続き、1号楠線や2号東山線等の大規模修繕工事を進めます。新たに1号楠線の2層区間（南側）の工事契約を予定しています。また、大規模修繕計画の見直しに向けて検討・作業を進めます。リフレッシュ工事は1号楠線北行きを予定しています。

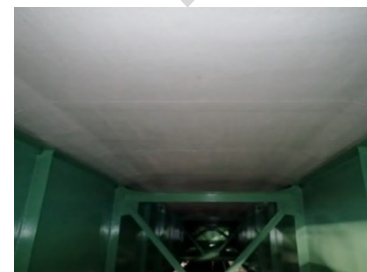
■ 大規模修繕工事の概要



大規模修繕の対策例 (コンクリート床版下面)

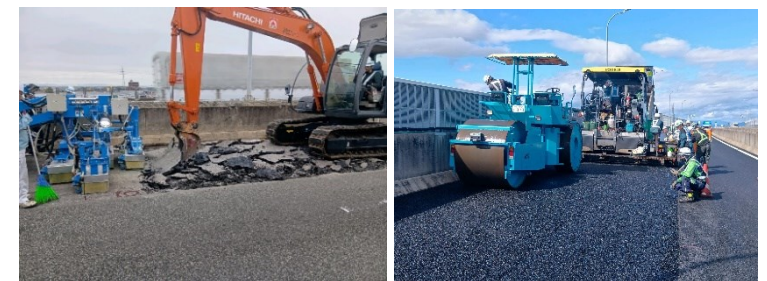


(対策前)



(対策後)

リフレッシュ工事の状況 (16号一宮線北行き)



(IH工法)

(表層工)



(工事完了後)

(2) 業務管理費（交通安全、逆走誤進入対策等）



○交通安全対策、逆走・誤進入対策を推進します。

2025年度実績

安全対策として、名駅入口料金所におけるETCレーン運用変更に伴い、ETCレーンへの導線改良に着手し、2026年4月から運用を開始しました。また、逆走・誤進入の削減に向け、都心環状線の本線合流部では大型矢印やポストコーンを設置し、出口部では逆走してしまった運転者の進行方向からのみ読める注意喚起表示（スーパービューアロー）を追加設置しました。

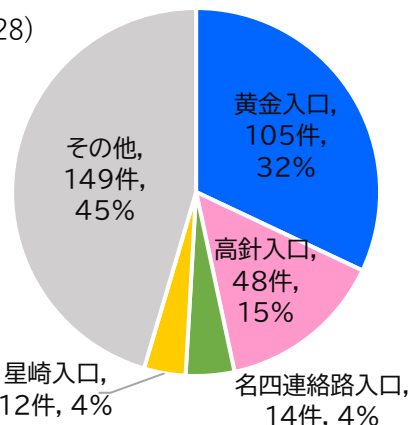
2026年度業務管理費
128億円

2026年度計画

引き続き、過去の事故データをもとに対策箇所の抽出及び安全対策を実施します。また、黄金入口の逆走・誤進入検知警告システムの今年度中の本格運用に向けて、精度向上を図るとともに、新たに誤進入事案の多い星崎入口への設置に向けて検討を始めます。

■ 誤進入者の箇所別割合（未遂含む）
データ期間：2022.04～2026.03

(N=328)

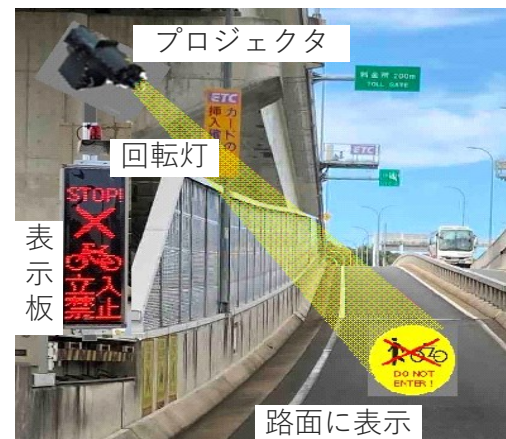


箇所別誤進入発生割合（未遂含む）



安全対策の事例

料金所の導線改良（名駅入口）



警告システム事例

検知・警告システム（高針出入口）



スーパービューアロー

(3) 持続可能な社会づくり等



中期経営計画 方向性Ⅳ
取組方針 1
持続可能な社会づくりへの貢献

- 省エネルギー化に向け、道路照明のLED化完了、太陽光発電の導入検討を推進します。
- 国の「道路脱炭素化基本方針」に基づき「道路脱炭素化推進計画」を策定しました。

■ 2025年度実績

道路照明のLED化を進め、更新率93%を達成しました。また、太陽光発電設備の導入に向けた検討を進めました。

■ 2026年度計画

全ての道路照明のLED化完了（更新率100%）を目指すとともに、事務所や基地での太陽光発電の導入検討を進めていきます。将来の普及拡大を見据え、多様な設置環境に対応したペロブスカイト太陽電池の試験導入などを行っていきます。

（道路脱炭素化推進計画の策定）

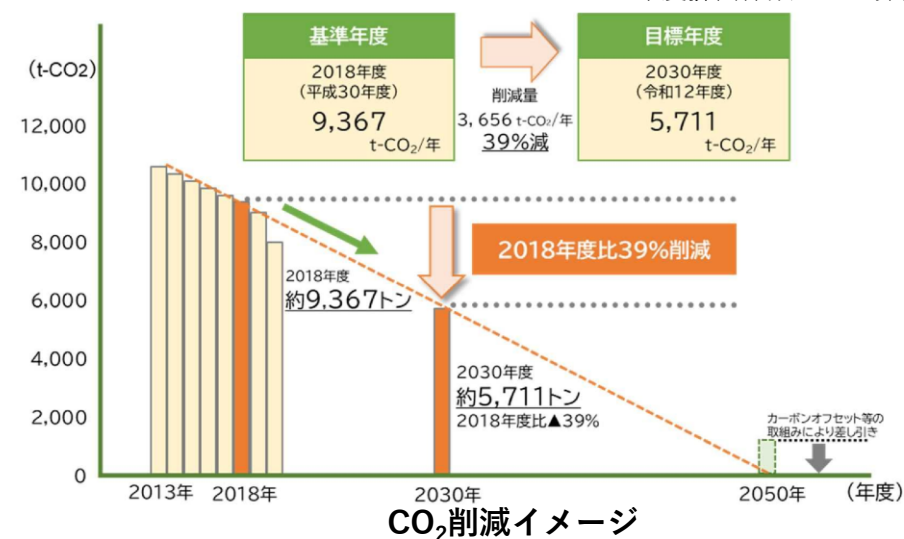
国の「道路脱炭素化基本方針」に基づき「道路脱炭素化推進計画」を策定し、CO₂排出量の削減を着実に推進します。（2026年6月8日策定）

（DXの推進）

道路管理業務におけるデジタル技術の導入や業務プロセスの効率化など、将来にわたって安全・安心・快適な道路サービスを提供していくために、DXを推進します。

2025年度CO₂排出量31.6%削減※（2018年度比）

※2018年度排出係数により算出



LED照明（本線上）



太陽光発電設備
(黒川出入口)



ペロブスカイト太陽電池の設置イメージ
(吹上西料金所)



名古屋高速道路公社

NAGOYA EXPRESSWAY PUBLIC CORPORATION



名古屋高速

検索

<https://www.nagoya-expressway.or.jp/>

2026年6月